

葛飾区議会レポート



明けましておめでとうございます。

◆旧年中はかわごえ誠一の活動にご理解・ご声援をいただき深く感謝申し上げます。昨年、相次いだ台風などの風水害より被災された皆さまに心よりお見舞い申し上げます。葛飾区でも避難勧告が発令され、災害への課題が浮き彫りになりました。いざという時のための災害対策をさらに進めていかなければなりません。国際的な地球温暖化対策が急務と言われる中「SDGs-国連持続可能な開発目標」では環境のみでなく人権や貧困対策などの取り組みも強く求められています。「だれひとり取り残さない」との理念のもと、全ての方が心豊かに生きられる社会を目指し、共に汗を流してまいりますのでご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

かわごえ誠一 2019 タウンミーティング報告

8月21日 「子どもの遊び場の今を考える」
12月3日 「台風19号・その時避難所は…」

葛飾区議会議員 かわごえ誠一

かわごえ誠一 プロフィール

●昭和38年3月川崎市生まれ●東海大学第二工学部建設工学科卒●立石在住32年●一男二女の父親●保育園/学童保育クラブ父母会、小・中学校PTA、おやじの会、図書館友の会、三番瀬保全活動などに携わる●元東京工業大学附属科学技術高校非常勤講師●本田消防団第四分団員●葛飾区ボッチャ協会会長●元都議会議員伊藤まさき秘書を経て平成25年区議選で初当選・平成29年二期目当選●議会所属：文教委員会副委員長、地域活性化・区民サービス向上対策特別委員会



タウンミーティング「子どもの遊び場の今を考える」での会場での意見交換

◆2019年度は現在までに5回のタウンミーティングを開催しました。◆8/21は「子どもの遊び場の今を考える」とし、千葉大学の木下勇先生をお招きし、公園でのボール遊び禁止を解消するため、まちづくりの視点の重要性を伺いました。◆12/3には「台風19号・その時避難所は…」を緊急開催し、区の被害状況の報告と、実際に開設された避難所の課題について話し合い、災害弱者となる女性や障がい者、外国人などの視点の重要性を確認しました。



緊急タウンミーティング「台風19号・その時避難所は…」の会場風景

タウンミーティング

主催：かつしか区民連合

かわごえ誠一 テーマ別学習会 2020のお知らせ

テーマ：今、「ひきこもり」について考える。

参加費無料

と き：令和2年 1月31日(金) 19:00~21:00 開場 18:45

会 場：かつしかシンフォニーヒルズ 別館5階 レインボー

葛飾区立石6-33-1 京成線青砥駅徒歩5分 ※会場の都合上、事前にご連絡いただくと幸いです。

1) 基調講演：ひきこもり～社会とつながれない背景と支援～

講師：墓田 薫 ひきたかおるさん 認定NPO法人 育て上げネット 執行役員

2) 活動紹介：不登校・ひきこもり訪問サポート「トカネット」の活動について

報告：藤原 宏美さん 一般社団法人 トカネット 代表

3) 事業紹介：葛飾区の若者支援の取り組みについて 報告：葛飾区子ども応援課

◆ひきこもり～家族の問題から社会の課題へ ひきこもりに関する事件が報道される度に、家族だけで抱え込んでいる状況を感じます。ひきこもりの背景を解きほぐし、社会で支援する体制整備が急務です。今回、育て上げネットから支援の状況を伺うとともに、葛飾区で始まった相談事業を伺い、ひきこもりについて考えたいと思います。

※手話通訳をご希望の方は事前にかわごえ誠一宛にご連絡下さいませようよろしくお願いいたします。



◆講師：墓田薫さんプロフィール
2010年に育て上げネットに参加。かわさき若者サポートステーション所長として行政との交渉などマネジメントや若年無業者の就労支援に従事。若年者就労基礎訓練プログラム「ジョブトレ」、母親の会「結」の事業責任者を経て、企業連携事業、家族支援事業を統括。著書：子どもがひきこもりになったら (KADOKAWA/監修)

ご意見・ご要望をお寄せ下さい。かわごえ誠一 web → <https://www.kawagoeseiichi.com>

問合せ 連絡先

かつしか区民連合

〒124-0012 葛飾区立石 5-13-1 葛飾区議会内

電話 03-3695-1111 (代)

FAX 03-3697-0137

かわごえ誠一連絡先

〒124-0012 葛飾区立石 8-47-18

携帯電話 090-2932-7315

e-mail info@kawagoeseiichi.com

葛飾区議会レポート

令和元年葛飾区議会第三回定例会

一般質問報告

かわごえ誠一 文教委員会 副委員長に就任

◆去る9月12日の葛飾区議会第三回定例会の本会議において、かわごえ誠一が一般質問に登壇しました。今号ではその概要をご報告をします。◆また、10月11日の最終本会議において役職の変更があり、かわごえ誠一は文教委員会副委員長に就任いたしました。

1) 葛飾区の外国人支援・多文化共生施策の推進について

■葛飾区でも外国人住民が増加しています。隣人として接する機会も増えてくる中、区としてどのように支援していくかが課題です。

かわごえ：外国人支援・多文化共生のためには分野を超えた連携が必要だ。全庁が連携した支援体制整備が必要と考えるのがいがか。

区長：課長級職員で構成する検討委員会を設置し、検討を進めている。携帯型翻訳機を外国人区民対応がある各課に配置する他、各課が連携して課題解決への体制をつくる。今後、検討委員会で全庁で活用できる多言語支援の方針や対応マニュアルを作成する。

かわごえ：外国人支援・多文化共生のためのワンストップ窓口の他、学びや交流のスペースなどが求められるのがいがか。

区長：新小岩駅南口駅ビルの建設計画に合わせて、外国人の生活支援機能を備えた施設整備について検討を進めていく。

かわごえ：現場のニーズの把握や協働を進めるため、当事者・支援者などの関係者・関係団体同士や区との情報交換の場を設けてはどうか。

地域振興部長：外国人区民との共生を進めるために、日本語ボランティア団体をはじめ、地域で活動する様々な国際交流団体や関係者との協働が欠かせない。各団体や関係者と区との意見交換の場を設け、活動を進める上で問題や課題など、現場の声を十分に聴き取り、今後の取り組みや支援につなげていく。



かわごえ：地域向けのやさしい日本語の講座の実施や、地域行事などへ、通訳ボランティアの派遣を進めることを検討してはどうか。

地域振興部長：外国人区民が安心して地域行事に参加できるよう、日本語ボランティアを通訳として派遣する仕組みを検討する。また、地域の方々を対象にやさしい日本語講座の開催も検討する。他：入管法改正や日本語教育推進法への認識・所管の組織強化など

2) 保育園等の災害対策について

■大規模災害時に子どもを守るための保育園等の取り組みを伺いました。

かわごえ：大規模災害などの緊急時の区と保育園との連携体制について伺う。また、各部訓練などで通信訓練をしてはどうか。

区長：災害時につながりやすいといわれているPHSを全私立保育園等に配置してきたが、2020年7月でサービス終了となるため、現在、メール等や画像等の利用もできるなど、より実用性が高い代替機器の導入とともに、それを有効に活用するための各部訓練について検討している。

かわごえ：災害時の保育園等の事業の再開や継続について伺う。

子育て支援部長：区では平成28年度に震災復興マニュアルを作成した。保育再開に向けては、早急に応急危険度判定を行い、安全が確認できた施設では、可能な限り早期に保育をする。危険・要注意とされた施設では、近隣保育園等と協力して児童をできる限り近い保育園等に割り振るなどの調整をしていく。

かわごえ：多様な民間の運営主体が参入しているとともに、様々な保育サービスが実施される中、災害時などの緊急時の体制やマニュアルについて区はどめように把握をしているのか伺う。

子育て支援部長：区では指導検査の際に、保育園の立地条件や地域の実情等を踏まえた上で、マニュアル等の整備状況を確認した後、避難訓練や消火訓練の実施状況など保育園が防災対策を講じているかを点検しており、必要な場合には指導助言を行っている。

かわごえ：避難所での災害弱者としての乳幼児などへの支援について伺う。

危機管理・防災担当部長：

避難生活を過ごす小中学校では、授乳用の個室の用意や、個室が確保できない場

合のプライベートテントを配備している。総合防災訓練で、区民に避難所での生活を知ってもらうために展示コーナーを設け周知を図っていく。乳幼児などが安全に避難生活を過ごすことができるよう、引き続き関係各部と連携しながら検討していく。

第三回定例会で一般質問に登壇するかわごえ誠一

3) 葛飾区教育振興基本計画達成に向けて

■平成31年度からスタートした教育振興基本計画を実効性のあるものにするため、多様な視点で質問をしました。

かわごえ：総合教育センターと特別支援教育・不登校・にほんごステップアップ教室の現状を伺うとともに、さらに整備を進めるため、それぞれの専門性を高める体制強化をすべきと考えるのがいがか。

教育長：総合教育センターは、学校生活や就学の相談を総合的に受け付けている他、学校に対する総合的なサポートを行っている。特別支援教育では自閉症・情緒障害特別支援学級の設置に取り組んでいる。不登校等の児童・生徒の支援は、個々の状況把握を行うとともに、小学校1校、中学校3校での校内適応教室を設置した。にほんごステップアップ教室は利用者が増加傾向にあり、日本語学級や通常学級への円滑な移行に大きな役割を果たしている。総合教育センターの組織をより体系的に整理し、役割分担を明確にするとともに、スクールソーシャルワーカーや教員経験者、心理専門員などの専門性を高めることにより有機的な体制強化につなげる。

かわごえ：これからのPTAなどの支援のあり方について伺う。

教育長：本区では、PTAを中心に、図書ボランティアやおやじの会などの活動を通して、多くの保護者が学校教育活動の支援に主体的に取り組んでいる。学校と保護者が一体となって子どもの教育を進めることは、様々な課題の解決への力となっており、子どもの健やかな成長にとって不可欠だ。また、PTAなどの活動は、自己実現や地域活動への参加など、豊かな人生を送るための礎となり、保護者にとっても大変有意義なものと考えている。PTA活動などの支援のあり方は、今後も主体性を十分に尊重し、活動の充実や活性化につながるよう、必要な支援を行うことが重要だ。

かわごえ：教育委員会内に専門性のあるICT支援体制整備が必要と考えるのがいがか。また、一人一端末時代への見通しを伺う。

学校教育担当部長：全教室に無線LAN環境を整備し、教員・児童・生徒用タブレット端末、大型提示装置を整備した。今後の専門性のあるICT支援体制について指導室の中に担当部署を設ける等、教育の情報化を推進できる体制を検討する。児童・生徒用タブレットの一人一端末整備については、効率の良い整備に向けて検討する。

かわごえ：学校改築の今後の見通しと、複合化や近隣小中学校の合築のあり方について、区としての考え方を伺う。

教育次長：現在改築を進めている6校は、令和5年度までに改築完了予定である。また、次期改築校7校は、本年度に2校の改築基本構想・基本計画を策定し、来年度から基本設計に着手する。それ以外の5校も、令和4年度までに改築基本構想・基本計画を策定する。公共施設との複合化や近隣小中学校の合築については、葛飾区公共施設等経営基本方針に基づく、施設の効果的・効率的な活用という視点を踏まえ施設部とも連携しながら検討を進める。他：教育長任期中の評価・かつしかスタンダードの定着についてなど